

いしずえ

今年も早いもので12月。首都分会にとっても激動の1年が終わろうとしています。組合員の皆さんのこの1年のご協力に改めて感謝したいと思います。

旧聞に属する話題ですが、12月1日今年の「流行語大賞」が発表されました。大賞には「チョー気持ちいい」が選ばれました。アテネで金メダルを獲得した直後の水泳の北島選手の言葉が今年の大賞になりました。他には、「気合だー!」「新規参入」などがトップテンには選ばれました。本やドラマの分野では「負け犬」「セカチュー」「ヨン様」などが目立ったようです。

ところで、今年の私たちの「流行語大賞」は、と問われれば何を思い浮かべるでしょう。例えば今年小泉総理にしばしば使われた「説明責任」という言葉。「首相は説明責任を果たしていない」という言葉が新聞や雑誌に踊りました。全損保脱退にあたり、前支部執行部は全く「説明責任」を果たさずに、「なぜ脱退なのか」、「なぜ合流なのか」、十分な説明や論議もなく、その経過・経緯について詳らかにせず脱退・合流の道を選びました。あらかじめ決められたシナリオに従い規定路線へと導いたとしか見えません。その後も財産分与では当初の言動を翻し全額の所有権を主張し、個人の積立金である「労金の返金」にさえも横槍を入れました。

一方、のらりくらりと団交の開催を延期し続けた会社窓口からは、組合の要求に未だに納得感のある説明はありません。仕事の面でも合併に伴う変更は数多に上っていますが、支社長やスタッフから事前にきちんとした研修・説明もありません。きちんとしたプロセスを経ることは、民主主義の原点ともいえる行動規範のはずです。今後とも首都分会は拘りを持った活動を展開していきたいと思いますので応援よろしくをお願いします。